



2025 年 8 月 6 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 立 花 エ レ テ ッ ク
代 表 者 名 代表取締役社長 布 山 尚 伸
(コード番号 8159 東証プライム市場)

問 合 せ 先 取締役執行役員 管理部門担当 松 浦 良 典
電 話 (06) 6539-2718

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、2025 年 8 月 6 日開催の当社取締役会において、下記のとおり審議・決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 現状評価

当社の株価に関連する指標のうち、PBR は 2025 年 3 月末時点で 0.63 倍、7 月末時点でも 0.75 倍であり、依然として 1 倍を下回った水準で推移しています。

また、PER についても、2025 年 3 月末時点で 8.02 倍、7 月末時点では上昇しているものの 11.93 倍と、株式市場における当社株価は割安の評価となっております。

これは、①最高業績であった前年度から利益が低下したこと ②株式の流動性が低いこと ③BtoB の業界にあって認知度が低いこと、が要因であると考えております。一方で、2025 年 3 月末で 2,403 円であった株価は、7 月末時点で 2,862 円と上昇基調にあり、引き続き次項の対策を実行していくことで企業価値を向上させてまいります。

① 当社グループの経営指標に対する連結業績の推移

	2021 年 3 月期	2022 年 3 月期	2023 年 3 月期	2024 年 3 月期	2025 年 3 月期
売上高 (百万円)	161,440	193,431	227,266	231,042	220,112
営業利益 (百万円)	4,033	6,710	10,316	10,764	8,222
経常利益 (百万円)	4,388	7,412	11,001	11,866	8,690
当期利益 (百万円)	3,457	5,144	7,841	8,471	7,046

② 当社株価の分析指標の推移

	2021 年 3 月期	2022 年 3 月期	2023 年 3 月期	2024 年 3 月期	2025 年 3 月期
1 株当たり当期純利益 (円)	137	204	314	347	300
1 株当たり配当金 (円)	37	60	90	100	100
1 株当たり純資産 (円)	2,980	3,092	3,389	3,861	4,134
期末株価 (終値) (円)	1,614	1,647	1,989	3,235	2,403
配当性向 (%)	27.0%	29.4%	28.7%	28.8%	33.4%
配当利回り (%)	2.29%	3.64%	4.52%	3.09%	4.16%
PBR (倍)	0.56 倍	0.53 倍	0.59 倍	0.87 倍	0.63 倍
PER (倍)	11.78 倍	8.07 倍	6.34 倍	9.32 倍	8.02 倍

2. 方針・目標

中長期経営計画「NEW C. C. J. 2200」（以下、「NCCJ」とする。）の各施策実行と「真のグローバル技術商社として強固な DX プラットフォームを確立」することによって事業成長を加速させ、自己株式取得による資本効率向上と株主還元強化を図るとともに積極的な情報発信と能動的な IR 活動を展開して PBR 1 倍超を目指してまいります。

また、次の中長期経営計画策定に当たり、より一層の成長に向けた戦略投資と資本政策について議論を進めてまいります。

- (1) NCCJ の各施策実行と DX プラットフォーム確立による安定した事業成長と利益生産性向上
 - ・ 来たるべき未来社会に選ばれる技術商社としてソリューション提案力を強化します。
 - ・ 全社レベルの情報の一元化とオペレーションの標準化を進め、各種自動化の仕組みを導入することで属人化の排除と利益生産性の向上を図ります。
 - ・ 成長市場であるインドへの進出と合わせて、アジアの産業界を支える「一大技術商社」になるべく、グローバル展開を加速させます。

(2) 株式流動性の向上

- ・ 株式市場における出来高の増加に向けて、政策保有株の縮減を進めて株式の流動性を高めてまいります。

(3) 自己株式取得による資本効率向上と株主還元強化

- ・ 2026 年 3 月期（2025 年 5 月から 2026 年 3 月迄）に、これまで 2 年間で取得した 2,000,000 株に加え、1,000,000 株の自己株式を取得します。
- ・ 同期間の会計年度ベースにおいて総還元性向 50%以上を目指します。

(4) 能動的な IR 活動の実施

- ・ 個人投資家ならびに機関投資家に向けた IR に注力してまいります。
- ・ 個人投資家向けには、リアルと WEB を併用した説明会の開催を継続し、機関投資家に向けては対話の機会を増やしていくことで当社の魅力を伝えてまいります。
- ・ また、対話を通じて把握したご意見等は、適宜経営陣にフィードバックして施策や活動に反映させてまいります。

(5) 積極的な情報発信

- ・ 当社ソリューションビジネスの取組みを具体例をもって理解いただくために顧客インタビュー動画を当社ホームページ上へ新たに掲載し、取扱製品情報も積極的に PR しております。
- ・ サステナビリティ推進情報や展示会出展情報を PR 情報として積極的に発信しております。
- ・ 統合報告書を当社の企業価値を総合的に把握できるツールと位置付け、内容の充実を図ってまいります。
- ・ 上記のような情報発信を今後も積極的に行っていくことにより、技術商社としての当社のビジネスモデルと強みを理解していただくことに努めます。

以 上